

基地の返還

返還へのあゆみ

諦めなかつた
五十年



▲第1次返還後の航空公園駅前交差点。のちに航空公園駅や市役所などが完成



▲「基地全面返還」のプラカードを持って市街地を歩いた市民大行進

1960年代になると社会の変化に伴い、返還運動も盛んになりました。1966年(昭和41年)、返還は市民全体が望んでいることの意味表示として、1万人署名運動を展開。目標を大きく上回る2万4,060人の署名が集まる結果に。翌67年(昭和42年)には、所沢基地全面返還運動市民大行進に4,115人が参加しました。このような機運の高まりを受け、1968年(昭和43年)9月16日市民代表・市議会・市で構成する所沢市基地対策協議会が発足したのです。

協議会を中心とした返還運動の結果、1971年(昭和46年)に基地敷地の約6割にあたる約190haの一部返還(第1次返還)が実現。この返還地には、市役所や

Interview

基地対策協議会は、今年で発足から50年目を迎えます。東西連絡道路の一部返還合意を含め、今までの返還は、歴代の基地対策協議会委員と市民の皆さんあってこそです。

今後も、市民・市議会・市と協力し合って、早期全面返還の実現を目指して取り組んでいきます。

所沢市基地対策協議会 荻野 敏行 会長

過去の広報とろざわでもあゆみを紹介

▲平成12年1月20日号
●市報 (Q広報基地のあゆみ) でご覧になれます。

航空公園などの公共施設の他、住宅施設も多く整備されましたが、同時に学校などが不足する事態に。そこで、1978年(昭和53年)、並木小学校や中央中学校を建設するため、約9.8haが一部返還(第2次返還)されました。

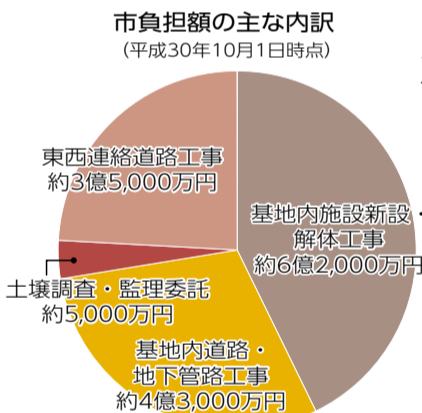
1980年代に入り、基地周辺の開発が進むにつれ交通量が増加。基地北側の狭い一方通行道路では、事故が多発しました。安全に使える二車線道路を作るため、1982年(昭和57年)に約1.4haが一部返還(第3次返還)されました。

第3次返還以降滞っていた返還ですが、2012年(平成24年)に東西連絡道路用地として約9,400mの一部返還(第4次返還)を合意。30年ぶりの返還に向けた動きとなりました。

悲願の東西連絡道路



▲基地を東西に結ぶ道路予定地(黄色斜線部分)



1976年(昭和51年)から返還の要望を始めた東西連絡道路は、基地の中央を東西に結ぶ幅員16m、全長580mの道路です。基地を迂回せずに済むことで、交通便利性が向上するだけでなく、重篤患者の防衛医科大学校病院への搬送時間が短くなり、救命率向上につながります。

現在、返還条件である基地内施設の移設工事を国と市で行っています。工事には、国が約53億円、市が約14億5千万円を負担します。第3次返還以降、30年ぶりの返還となり、今後の全面返還への足掛かりとなる大切な工事です。

本年2018年から東西連絡道路の本体工事に着手し、2020年(平成32年)3月の開通を目指します。

あすを描く

返還後の未来

Interview

子どもから大人まで、みんなが楽しめる場所になってほしいなと思って描きました。水族館やタワーに人が集まって、たくさんの笑顔がある場所です。

基地跡地の未来予想図 絵画コンクール最優秀賞
野地 実生さん (中富小4年)

いまだに市の中心に97haもの基地が存在している事実。広大な敷地が市の中心にあり続けることは、所沢の今後のまちづくりに大きな支障となるだけでなく、米軍航空機が基地に飛来することにもつながり、市民の安全安心な暮らしを脅かすことにもなります。基地全面返還の先に、どのような未来を描くのか。所沢で暮らす一人一人が考えていくべきテーマです。

本年、基地対策協議会発足50周年の記念事業として、市内小・中学校の児童生徒から「基地跡地の未来予想図」の絵画を募集しました。どの作品も基地全面返還後のあすを描く、夢や想いがたくさん詰まったすばらしい作品ばかり。子どもたちの夢を実現するために、今後も同協議会を中心に、市民・市議会・市が協力し合いながら、粘り強く国や米軍に働きかけ、早期全面返還を目指していきます。

基地跡地の未来予想図 絵画コンクール 入賞作品

会長賞 参与賞 優秀賞 名誉会長賞 優秀賞 優秀賞